關西大學新聞
（毎月二日・十日・十一日・十二日・十九日・二十日・二十一日・二十二日・二十九日・二十一日・二十二日・二十三日・二十四日・二十五日・二十六日・二十七日・二十八日・二十九日・三十日・三

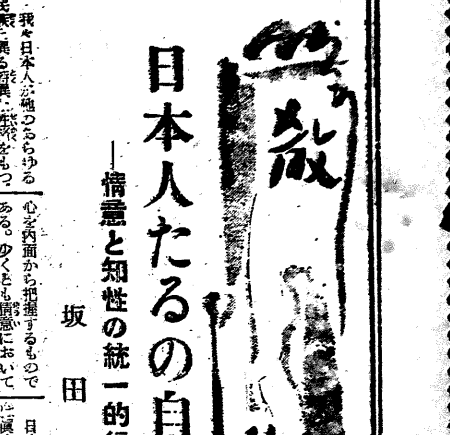
日本人たるの自覺

―情意と知性の統一的行爲―

坂田德男

我々日本人が他のあらゆる民族と異る特異に性格をもつてゐることはいふまでもなく、しかし必ずしも今人がそれを自覺してゐるとはいはれない。しかし今日は眞に一億一心で行かなければならぬ時勢になつて來たのであるから、内外の事情に通じられ自覺せざらんとするもの、無関心事であるから。しかしこの種は無到な無邊を期するわけに行かない事情に鑑せられ、以下若干の點について注意したいと思ふのである。

自覺とはいふまでもなく自己を知ることである。自覺に個人としての自覺がある、また國民としての自覺があるこ



とは誰しく感じるまでもないが、自覺の一點においてはその本質を一にするのである。一體自己といふものは一番我々に近いものである。しかるにその自己とは何かを明瞭、判然たらしめようとしてもそれは決して容易ではない。すなはち一番自己に近いものが最も知られないのである。それはつまり餘り近過ぎて知られないのである。然しそもそも我々が自己を知ることは、深い意味の自覺でなくてはならぬのであるから、自己をまるで品物か何ものやうに、いはゆる對象化して考へたのでは本質をわからなくなるのは當然である。さういふ風に、自己を外物化し、對象視して考へては決して眞の自覺、覺へたるとは言へない。

日本人　日本人たる性格を眞に自覺せんとするならば決して之を單に帝國なる知性の對象視すべきではない。知性の對象視すべきではないからばいかなる途に就くべきであるか。知性に對立するものは情意である。情意とは行爲を決する原動力である。我々は知性のよく透徹しえない範に情意をもつて飛び入ることが出來る。情意は知性のやうに對象を冷靜に眺めるのとちがつて、直ちに事物の核心を内面から把握するものである。少くとも情意において既盛でない人間はいかなる事業をも完遂するに堪えぬ人間である。

今日の日本は生産に缺けたものも今一つ熱烈なる情意である。しかしこれはいふまでもなく知性を排除せよといふのではない。知性の力ならしめることが人間の本質である。自己は知る主體であつて、知られる對象ではない。しかして知る主體こそは知ると共に意欲し、情感するものである。さういふ自己をひたすら知性の對象に化しようとするのが誤つた主知主義へ身を委すことであるのは以上の注意からわかつてもらへるであらうと信ずる。

意感と情熱は行爲を生み、行爲をとほして自己の性格は發揚され、その過程を通して自覺といふものが起るのである。單なる知性の立場はこの行爲の直感の過程を捕象して一切を對象化し、物として冷靜に眺めるものである。もつて自己為場となすところの一面的立場である。

以上は餘りに哲學的に説いた嫌があるかも知れない。解りにくいところがあるかも知れない。しかし一般論的前振として必要であるから言及した次第である。時代は我々日本人に果敢なる行爲を要求してゐる。それはしかし知性を含んだ行爲であられねばならない。日本人の性格は

「意」的　な熱と知性の一つになつた行爲を通じて未來を創造することが出來るのである。從來はあまりに主知傾向に引ずられてゐたが、あるひは盲目的に情熱を鼓吹しようとされた嫌ひがあつた。

赤い心　國難に觸れるからである。これは太古から存して、現在に生き、さらに將來も不滅なる以上、日本人が日本人たりうるところのものである。したがつて右のやうな戰闘な心は日本人はいつでも立もどることが出來るのである。そこに我々の大なる強みがあり底力がある。近頃世間で七六つかしく騒がれかりしてゐる連中は、むしろ支那かぶれ、甲度かぶれしてゐるのであらう。しかしこの戰闘な赤い心は決して表外面的なものではない。日本人の眞心といふものは簡單にいへば何といつたらよいか、いろいろ哲學的に難かしく表現するのであつて、これを直觀し、自覺することは何人も難かしい問題ではある。そんなに難かしい問題ではある筈ないのである。必ずしも高人が哲學的に考へねばならぬわけのものではない。しかしは日本人のその本當の眞心といふものは簡單にいへば何といつたらよいか、いろいろ哲學的に難かしく表現するのであつて、これを直觀し、自覺することは何人も